

令和8年3月 伊勢原湘南

# こころの森メッセージ



院長 善本正樹

## 相馬に感謝

相馬のメンタルクリニックなごみには、14年間医療応援へ行っています。

実は、メンタルクリニックなごみの医師の中では、一番勤務が長い精神科医になります。

開設当時の混乱の中、クリニックスタッフが一生懸命だった姿を思い出します。

スタッフは、震災の混乱の中で患者さんを支えているわけですが、スタッフ自身も被災者です。自宅が原発の避難区域にあって自宅に戻れないスタッフもいました。原発事故の放射能がどうなるのといつも不安も強かったです。

メンタルクリニックなごみのスタッフとは、家族のような存在です。

ときには、一緒に食事をしたり、スタッフの子供さんの誕生日にお祝いに行ったり、旅行へ行ったりなど、たくさんの思い出があります。

人の人生はどうなるかわからないですね。神戸で生まれて、秋田に住んで、今は伊勢原にいる。そして、相馬へ行っている。

感謝、ありがとう。

## 福島 の 現状、相馬市から

平成23年3月11日、あの震災からまもなく15年が経ちます。私は、平成24年1月から福島県相馬市にあるメンタルクリニックなごみへ医療研修として毎月一度行っています。現状を報告します。

クリニックは、月曜日から土曜日まで診療をしています。現在の院長は、精神科リハビリで有名な蟻塚先生です。蟻塚先生は、沖縄戦におけるPTSD（心的外傷後ストレス障害）の研究でも有名です。NHKなどテレビの取材や国内だけでなく海外における研究発表をこなしています。蟻塚先生は、診察だけでなく、デイケアにおける心理教育も担当されており、患者さんからの信頼が厚い先生です。当クリニックに蟻塚先生が書いた本がありますので、一読して下さい。

クリニックには、応援医師が全国から来ています。その中の一人として、沖縄新垣病院の新垣理事長がいます。新垣先生は、精神科医療政策の専門家で、厚労省に意見を述べて、新しい医療保護入院制度など医療政策に関与している先生です。新垣先生は、メンタルクリニックなごみの初代院長でもあります。混乱が大きかったクリニック開設当時は、毎週沖縄から相馬に通ってクリニックを支えていました。私を相馬の医療応援に声をかけてくれた恩師の先生です。

診察は午前9時から午後6時までです。近隣には入院できる精神科病院（80床）が一件しかなく（原発事故で多くの精神科病院が閉鎖されたため）、入院が必要な患者さんが来たときには四苦八苦します。

患者さんへの問診で生活歴を詳しく知ったとき、“津波で家族の〇〇が流された”、“原発事故で家に戻れない”、“震災のときには県外で避難生活をしていた”など、震災のときの出来事を聞くことが度々あります。震災から15年経っても、あのときの辛い経験は消えることはありません。

相馬の町は、行きかう人も、過ぎ去る街並みも、普通の街となりましたが、津波で多くの人の命が奪われ、原発事故で住み慣れた家を離れ、今も原発の廃炉作業が継続している現実には忘れていけません。3月11日が今年も来ます。